

亜細亜大学

令和2年度「データサイエンス副専攻」

点検・評価報告書

亜細亜大学 内部質保証評価委員会

令和3年6月29日作成

7月17日更新

令和2年度「データサイエンス副専攻」点検・評価報告書

内部質保証評価委員会
委員長 大島正克

1. 点検・評価の実施

亜細亜大学データサイエンス教育委員会が実施主体となり、前年度開講したデータサイエンス副専攻に関連する授業科目の自己点検・評価を行った。その結果を「内部質保証評価に関する規程」に基づき、自己点検委員会が検証し、内部質保証評価委員会が評価を行った。

2. 点検・評価の対象

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱細目」（令和3年2月24日制定）に基づき、教育プログラムの「履修・修得状況」、「学修成果」、「学生アンケートに基づく学生の内容の理解度」、「他の学生への推奨度」、「全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況」を対象とした。さらに令和2年度に実施した授業科目の点検・評価を行った。

3. 評価結果の判定

「亜細亜大学データサイエンス教育委員会による自己点検・評価結果」に基づき、内部質保証評価委員会が判定した。

【評価レベル】

- A 『優れた点』があり、十分に行われている。
- B 概ね行われており、相応である。
- C 改善の必要がある。

4. 内部質保証評価委員会の評価結果

【評価レベル B】

概ね適正に行われていると判定する。

令和3年度末に初めての修了者が出る予定である。修了者の進路、活躍状況の情報を点検・評価することを求める。

5. 亜細亜大学データサイエンス教育委員会による自己点検・評価結果

(1) 授業科目の点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
教育プログラムのディプロマポリシー (DP) を定め、これに沿って教育プログラムの科目を配置し、カリキュラムを構築しているか。	データサイエンス副専攻 (以下「教育プログラム」という) のディプロマポリシー (DP) として「副専攻修了証授与方針」を定め、教育プログラムのウェブページで学内及び社会に対して公開している。3項目からなるディプロマポリシー (DP) をさらに8項目の DP 項目に細分化し、これらをカバーするように教育プログラム科目を配置し、カリキュラムを構築している。	教育プログラムのディプロマポリシー (DP) を定め、インターネットを通じて公開し、これに沿って教育プログラムのカリキュラムを構築しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)
教育プログラムのカリキュラムマップを作成し、学生・教員が学修効果・教育効果を確認できるようにしているか。	前項のディプロマポリシー (DP) を細分化した8項目の DP 項目と、教育プログラム科目の対応関係をカリキュラムマップとして整理し、教育プログラムのウェブページで学内及び社会に対して公開している。学生はこれを参照して各自の学修の進捗を把握することができ、また教員はこれを教育効果の把握とカリキュラム改善に活用することができるようにしている。	教育プログラムのディプロマポリシーと教育プログラム科目の対応をカリキュラムマップとして整理し、インターネットを通じて公開し、学生及び教員が活用できるようにしており、基準を満たしている。 (評価レベル B)
教育プログラム科目の「学修目標」、「成績評価方法等」を各科目のシラバスに記載しているか。	本学の全科目でシラバスに「学修目標」及び「成績評価方法等」を記載することが義務付けられており、教育プログラム科目のシラバスにおいても記載を行っている。	教育プログラムの全科目のシラバスで「学修目標」及び「成績評価方法等」を記載しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)
教育プログラム科目のシラバスであらかじめ開示した成績評価基準に基づき成績評価を行っているか。	本学の全科目でシラバスの「成績評価方法等」の欄に、平常点、授業回毎の小テスト、授業回毎の課題、最終課題、期末試験等の項目別に成績評価への寄与をパーセント単位で記載することが義務付けられており、教育プログラム科目のシラバスにおいても記載を行っている。また教育プログラムの各科目でこれにしたがった成績評価を実施している。	教育プログラムの全科目のシラバスで「成績評価基準等」を記載し、これにしたがって成績評価を実施しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)

<p>学修成果の評価に用いた課題・問題等の文書は学生・教員が閲覧可能な状態で保存されているか。</p>	<p>教育プログラム科目のほとんどで LMS (manaba, Google Classroom) を活用して授業を行っており、これらの科目では課題の出題・提出・採点も LMS 上で行っている。これらの課題の問題文等は、課題の提出・採点後も学生・教員が閲覧可能な状態で保存されている。</p>	<p>LMS (manaba, Google Classroom) を使用している科目においては、課題・問題文等が保存されており基準を満たしている。今後教育プログラムの全ての科目において、課題・問題文等の保存を確認する必要がある。 (評価レベル C)</p>
<p>学修成果の評価に用いた課題の答案等はできるだけ返却しているか。</p>	<p>教育プログラム科目のほとんどで LMS (manaba, Google Classroom) を活用して授業を行っており、これらの科目では課題の出題・提出・採点も LMS 上で行っている。これらの課題の答案は、採点後に採点結果とともに学生が閲覧可能な状態となり、事後学修に利用されている。</p>	<p>LMS (manaba, Google Classroom) を使用している科目においては、答案が学生に返却されており基準を満たしている。今後教育プログラムの全ての科目において、答案の返却を確認する必要がある。 (評価レベル C)</p>

(2) 教育プログラムの点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
<p>教育プログラムの履修・修得状況・学修成果を確認できているか。</p>	<p>教育プログラム初年度の令和 2 年度は 1 年生 140 名、2 年生 93 名、3 年生 71 名が登録し (2 年目以降は基本的に 1 年生のみ募集予定)、年度末までにそれぞれ平均 2.81 単位、7.76 単位、7.30 単位を修得した。</p>	<p>登録者数については、初年度としては基準を満たしており、次年度以降は次項の向上策を図る。学修成果については、平均修得単位数から基準を満たしている。 (評価レベル B)</p>
<p>全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画を実施し、進捗状況を確認できているか。</p>	<p>令和 3 年度に 5 ヶ年の履修者数向上計画を策定した。また「亜細亜大学データサイエンス大賞」を制定しデータサイエンス関連資格取得者に対して報奨金を授与するなどの施策を実施している。(参考資料「亜細亜大学データサイエンス大賞基準表」)</p>	<p>「教育プログラム申請書」において 5 ヶ年の履修者数向上計画を示し、これを実現するための施策も実施しており、基準を満たしている。向上計画の進捗状況は次年度以降に確認する。 (評価レベル B)</p>

<p>学生アンケートに基づく学生の理解度・他の学生への推奨度を確認できているか。</p>	<p>令和 2 年度後期の学生アンケートで「到達目標の達成」「新たな興味の高まり」「授業への満足」の 3 項目で「そう思う」「強くそう思う」が全科目で 6 割以上、コア科目群では 9 割を超え高い評価を得ている。一方、現在大学全体で行っている学生アンケートでは教育プログラムの「他の学生への推奨度」などの項目は設定していないため、今後これらの項目を設定した教育プログラム独自のアンケートも実施する。</p>	<p>全学対象のアンケートの結果から、教育プログラム科目の高い理解度を確認している。一方、今後、教育プログラム独自のアンケートを実施し「他の学生への推奨度」などの項目についても確認する必要がある。 (評価レベル C)</p>
<p>教育プログラムが示すモデルカリキュラムとの対応を確認できているか。</p>	<p>教育プログラムを構成する 14 科目の令和 2 年度シラバスを確認し、本学学生が広く興味を持つ内容であるとともに、モデルカリキュラムの「導入・基礎・心得」の 5 項目に加え、「選択」の内容もカバーしていることを確認した。</p>	<p>教育プログラムを構成する科目のシラバスとモデルカリキュラムの対応を確認し、「導入・基礎・心得」に加え、「選択」の内容を含むことも確認しており、十分に基準を満たしている。 (評価レベル A)</p>
<p>教育プログラム修了者の進路・活躍状況を確認できているか。</p>	<p>教育プログラムは令和 2 年度に開始し、令和 3 年度末に初めての修了者が出る予定であり、まだ修了者の進路、活躍状況の情報を得られる段階にはない。</p>	<p>—</p>
<p>教育プログラムの点検・評価結果をインターネット等を通じて公開しているか。</p>	<p>令和 2 年度の教育プログラムの「点検・評価報告書」を、以下の教育プログラムのウェブページで公開している。 https://www.asia-u.ac.jp/academics/minor/1/</p>	<p>教育プログラムの点検・評価を実施し、その結果を教育プログラムのウェブページで公開しており、基準を満たしている。 (評価レベル B)</p>

以上